



7月、09年度の県の男女共同参画チャレンジ部門の知事褒賞を受賞した。

ケアマネジャー、看護師、経営者としての顔を併せ持つ「チャレンジの人」だ。40歳を過ぎて高校に入り直して看護師の資格を取得し、看護婦長まで勤めて退職。57歳で銀行などから1億5千万円を借り、グループホームと小規模多機能型居宅介護施設を併設した「2人

3脚」を富士市に作った。昔からお年寄りが好きでした。たくさん経験を積んだ人から、自分も何かを得られると思っていたのかも」

高校卒業後に准看護師として3年働き、結婚。子どもたちが育つてから、「なんか、働きたくなっちゃった」という。43歳で勉強を再開し、主婦業の合間を縫っては息子の教科書とにらめっこ。市立沼津高校に合格

した。周りにはみな自分の子どもの年齢でも「楽しかった」。「体育以外の成績は優秀で、卒業式では答辞を読んでみんなを泣かせました」と笑う。看護師として8年間働き、認知症専門の病棟で婦長も務めた。しかし「マンツーマンでお年寄りと同じ合えない」というジレンマに陥る。思い切って仕事をやめ、起業相談会などに通いながら事業計画を独りで練った。綿密な計画は「完璧だ」と専門家を驚かす出来だったという。

設立から2年がたち、軌道に乗り始めた。今では後進の同業者からの相談に乗るようにもなってきた。

「寄り添える介護ができる。こんな幸せなことはない。死ぬまでやっていきたいですね」

(後藤遼太)

「寄り添う介護」で生きる幸せ